

先生・お薦めの一冊

もと
団旗はためく下に



重松清『小さき者へ』(毎日新聞社)より

英語科 廣瀬裕二先生

高校2年生の美奈子は、「いつもどおり」の毎日を「なんとなく」過ごす生活に嫌気が差し、高校を辞めたいと考えるようになる。そんな一人娘の美奈子を溺愛する父親は、出版社の営業部課長で強面の元大学応援団団長。応援団で培った「押忍」の心で何事も乗り越え、現在も応援団の仲間から慕われ「団長」であり続ける父親を疎ましく思う美奈子。高校を中退して美容師を目指そうとする美奈子と、猛反対する父親。父親に反発しながらも、「押忍」の心の意味を徐々に理解し始めた美奈子の出した結論は？そして、愛する娘のために不器用な父親が取った行動は？

重松清氏の作品は、常に親子や家族の愛情が溢れ、自分(=廣瀬)のような年代にとっては共鳴する部分が非常に多いように感じます。自分自身は、この作品を何度読んでも最後は感涙せずにはおれません。「お父さんは、私の気持ちなんか少しも分かってくれない。」だとか、「近頃、お父さんとともに口をきいたことがない。」という女子生徒がいたら、必読を薦めたい作品です。勿論、『小さき者へ』には父親と息子が主人公の作品も収められていますので、男子生徒も一読してみてください。

先日バスに乗車すると、40名余りの乗客の中で性別や年齢に関係なく、9割近い人が携帯電話でラインやゲームに熱中し、音楽を聴いていました。残りの方は寝ていて、本を抜げていたのは自分(=廣瀬)を含めて2人だけでした。確かに、携帯電話で携帯小説や必要な情報がワンクリックで得られる便利な時代です。しかし、本には携帯電話の画面には無い味わいの世界があるように感じます。読書の秋、少しの間だけ携帯電話を手から離して、本の魅力に気づいてくれたらと思います。



2015年 第69回 読書週間

10月27日(火) ~ 11月9日(月)

標語 **いつだって、読書日和**



秋です。行楽の秋、スポーツの秋、食欲の秋、そして読書の秋です。寒すぎず、暑すぎずの気候は、野外での活動に最適です。3年生の皆さんは、追い込みの季節に入り読書する時間もないことと思いますが、1・2年生の皆さんには是非とも「読書の秋」にしてほしいものです。

2年生の皆さんには、「10月に何冊の本を読んだか」という調査に協力してもらいました。全国の高校2年生が、1ヶ月に何冊読んだのかという全国規模の調査でした。パソコンやスマホは身近で手軽な情報源であり、電子書籍で小説まで読める時代です。それでも「本」を読みましょう！と言われるのは何故でしょう。たとえば推理小説。犯人は一体、誰？ページは残り少なくなってくる。まだ犯人が分からない。犯人を知りたい読者は、先へ先へとページをめくりまわります。電子書籍の画面では味わえない紙質や本の香り、分厚い本の重量感、そしてそれを読み終えた後の達成感。廣瀬先生もお書きくださったように「本の魅力」に、多くの人が気づいてくれる秋になりますように……。

新着図書

- * 『与楽の飯 東大寺造仏所炊屋私記』 澤田瞳子 著 (光文社)
・東大寺大仏建立。そこで働く名も残さぬ若者たち。彼らの心と身体を支えたのは一膳の飯だった。人の生と死を食の視点から描く。
- * 『中野のお父さん』 北村薫 著 (文藝春秋) ・体育会系の文芸編集者の娘と、定年退職間際の国語教師の父との物語。
- * 『ふなふな船橋』 吉本ばなな 著 (朝日新聞出版)
・12歳の私はひとりぼっちだった……。千葉県船橋市で繰り広げられる温かなお話。ふなっしーも登場するかも！
- * 『風かおる』 葉室麟 著 (幻冬舎) ・些細な嫉妬から流転する人生……。傑作時代小説！
- * 『我が家のヒミツ』 奥田英朗 著 (集英社) ・どこにでもいる普通の家族の、ささやかで愛おしい6編の話。
- * 『きのうの影踏み』 辻村深月 著 (角川書店) ・辻村ファンの皆さん、お待たせしました！傑作短編集です。
- * 『ディズニー・ハピネスの神様が教えてくれたこと』 鎌田洋 著 (SBクリエイティブ)
・本当の幸せに気づく実話を元にした物語。2年生の皆さん、国内体験学習の前に読んでみませんか！
- * 『執着 生きづらさの正体』 香山リカ 著 (集英社) ・“執着という病”に苦しむすべての現代人へ！
- * 『お皿の上の生物学』 小倉明彦 著 (築地書館)
・大阪大学出前講座！身近な料理・食材で語る科学エンターテインメント。
- * 『人生最後のご馳走』 青山ゆみこ 著 (幻冬舎)
・最後に選ぶ食事に、その人の生きた証が詰まっている……。管理栄養士になりたい人に読んでほしい本です。
- * 『動物翻訳家』 片野ゆか 著 (集英社) ・動物園の飼育員の話。動物とかかわる仕事を目指す人へお薦めです。
- * 『ぼくの命は言葉とともにある』 福島智 著 (致知出版)
・9歳で失明、18歳で聴力も失った東京大学教授・福島智。全盲ろうにして世界初の大学教授となった福島氏が、絶望の中で見出した幸せとは？
- * 『ダウン・ザ・ライン 錦織圭』 錦織圭 言 稲垣康介 文 (朝日新聞出版) ・錦織圭ファンの皆さん、お待たせしました！
- * 『ニュースの大問題』 池上彰 著 (さくら舎) ・そもそもニュースって何？ ニュースの賢い受け取り方を、池上氏が伝授します。
- * 『数学の言葉で世界を見たら 父から娘に贈る数学』 大栗博司 著 (幻冬舎) ・数学が好きになる本です



9月クラス別貸出統計

4月の総貸出冊数 844冊 5月の総貸出冊数 311冊 6月の総貸出冊数 454冊
7月の総貸出冊数 235冊 8月の総貸出冊数 64冊 9月の総貸出冊数 179冊

学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	7	0	2	6	0	14	30	4	7	11	0	0	36	22	7	0	2	1	0	1	8	1	5	15
合計	63冊								83冊								33冊							

* 9月は体育祭や祝祭日が多く、本当にあっという間に過ぎていきました。そして10月は実力考査や模試が……。なかなかゆっくり本が読めません。でも、上手に時間を見つけて読書をしてください。新着図書もたくさん届きました。小論文関係の資料も充実しています。秋こそ読書を！！

編集後記



木々がそろそろ紅葉し始める季節です。昼間の暑さも影を潜め、季節はどんどん深まってきました。新着コーナーには、読みたい本がたくさんあります。しかし、残念なことになかなか読む時間がつくれません。それでも読書週間の今、本を読もう！と思います。図書委員の私たちが、図書館と教室のパイプ役となれるように、もっともっと本を読もうと思いました。最後になりましたが、お忙しい中、原稿をお書きくださいました廣瀬先生、有難うございました。